

～筋肉を切らない低侵襲顕微鏡手術～

県立二葉の里病院（旧 JR 広島病院）整形外科では、患者さまの負担をできるだけ軽減するために、「筋肉を切らない低侵襲顕微鏡手術」を行っています。手術による痛みを最小限に抑え、早期の回復を目指した治療を提供しています。

この手術は、東京歯科大学の白石教授たちが開発した手術方法です。従来の手術では、患部に到達するために筋肉を切開することが一般的でした。しかし、当院では顕微鏡を用いた低侵襲手術を導入し、筋肉を切らずに手術を行うことで、以下のようなメリットがあります。

- **痛みの軽減**: 筋肉へのダメージが少ないため、手術後の痛みを抑えることができます。
- **回復が早い**: 入院期間が短く、早い社会復帰が可能になります。
- **身体への負担が少ない**: 出血が少なく、高齢の方や持病をお持ちの方にも優しい治療です。

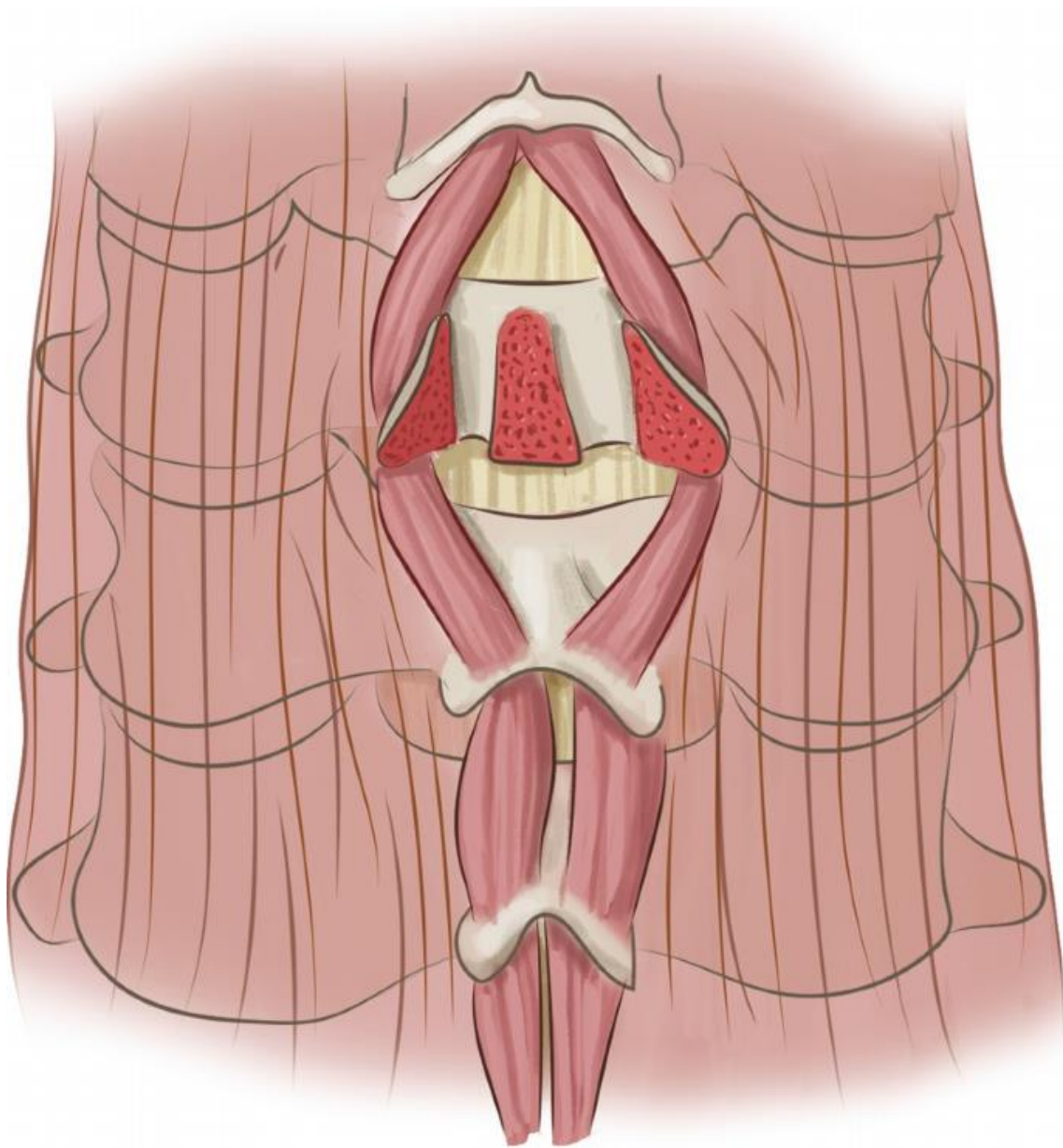
しかし、この手術は技術的に難しく、どの施設でも行えるわけではありません。顕微鏡視下での高度な手術テクニックに加え、手術部位を正確に診断することが求められます。当院では以前より顕微鏡手術を行っており、私自身も白石教授から直接指導を受けました。また、これまでにこの方法で 1600 例の手術を行ってきた実績があります。

当院の低侵襲顕微鏡手術は、主に以下の疾患に適応されます。

- 腰部脊柱管狭窄症
- 腰椎・頸椎椎間板ヘルニア
- 頸椎症性脊髄症・神経根症
- その他の脊椎疾患

私自身、通常の顕微鏡手術や内視鏡手術も数多く行ってきましたが、この筋肉を温存する方法は、スポーツや重労働を行う若い方だけでなく、筋肉が弱くなってきたご高齢の方にも大変有用な術式であると認識しています。患者さま一人ひとりの症状に合わせて最適な治療方法をご提案いたしますので、お気軽にご相談ください。

県立二葉の里病院 整形外科 主任部長 田中信弘



白石法:筋肉を温存した頸椎除圧術

(From Tateru Shiraishi & Ryoma Aoyama, "Selective Cervical Laminectomy of Limited Width by Muscle-Sparing Technique Using Anatomical Plane Exposure", Chapter pp 437–441 Cervical Spine Surgery: Standard and Advanced Techniques)